



たちばなと
お菓^{かし}子の
ものがたり





むつきくんとかおるくんが
神社の前を通りかかると、
みかんのいいかおりがしました。
見ると、白くて小さい花が
たくさんさいていました

「みかんって、むかしはお菓子だったんだって」
ふたりがかおりをかいていて、
かおるくんがそんなことを言いました。

「みかんはくだものだよ。お菓子じゃないよ」
むつきくんはおどろいて言い返しました。
「お菓子だよ。うちのおじいちゃんがいったもん」
「ちがうって。かおるくんのうそつき」
「なんだと、うそつきじゃないぞ！」



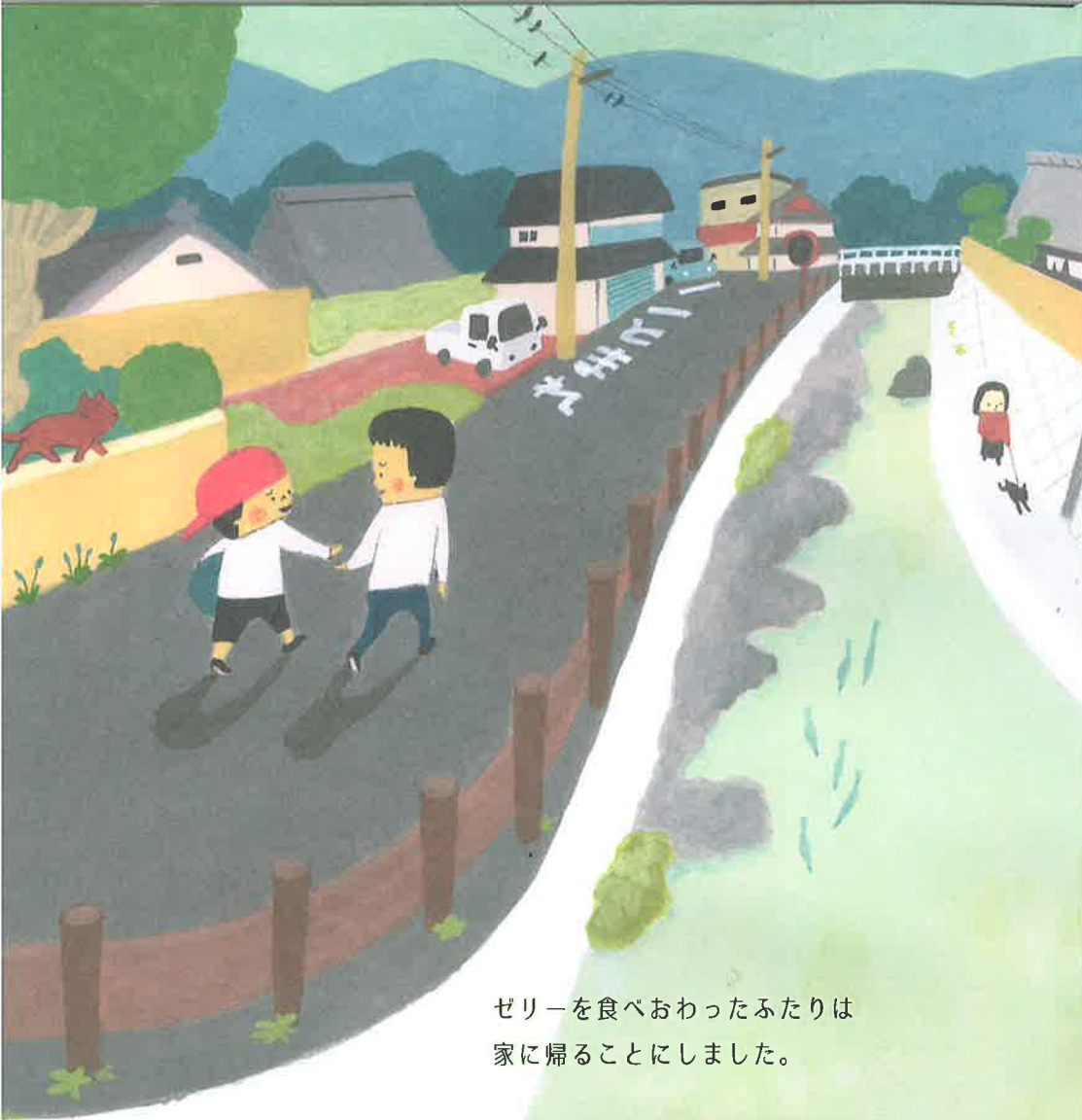
「なんだなんだ、けんかはよくないぞ」
となり声をききつけた神主さんが、建物から出てきました。

神主さんはむつきくんたちに
みかんが入ったゼリーをくれました。



そして、この神社の神様の話を始めました。
「この神社にはタチマモリというお菓子の神様がまつられているんだ。
タチマモリは、むかし遠い国から橘の実を持って帰った人でね」

「その橘の実がうえられたのが六本樹の丘なんだ」
そういって山のほうを指さした神主さんは、にっこりわらいました。
「橘というのは、みかんの元になった果物で、
むかしはお菓子として食べられていたんだよ」



ゼリーを食べ終わったふたりは
家に帰ることにしました。

神社を出ると、
むつきくんはかおるくんをそっと見ました。
かおるくんもむつきくんをちらっと見ました。

「さっきはうそつき、なんていってごめん」
「ぼくも、どなってごめん」



家に帰るとむつきくんは、
お菓子屋さんをしているお父さんとお母さんに
お菓子の神様の話をしました。

話を聞いたお父さんたちはびっくり。
「お菓子の神様があの神社にいるなんて知らなかったな」
「それならお菓子でこの町をもっともりあげよう!!」



海南省では、
全国でもめずらしい
「お菓子の条例」
ができました



制作 海南市、(一社)海南市観光協会
絵 秦野佳子